

持続可能な社会と建築をつくるために

OMreport



OMの集熱にも適した広がりのある大屋根が印象的な園舎。園庭の木はもともとこの地にあった木をシンボルとして残しておいたもの。



天井高の開放的な空間とOM効果により冷たかない床で園児たちは身体全体を使ってのびのびとリズム遊び。

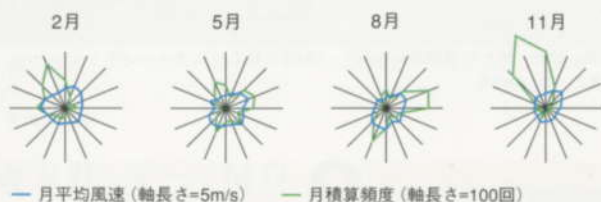
茨城県ひたちなか市 「たんぽぽ保育園」

ひたちなか市は、1994年11月に勝田市と那珂湊市が合併して発足した、茨城県北部の都市です。東は太平洋（鹿島灘）に面し、南は那珂川を挟んで水戸市と大洗町、西は那珂市、北は東海村と隣接し、水戸市、つくば市、日立市に次ぐ県内4位の人口を有しています。ひたちなか市の年間平均気温は14℃。四季を通じて晴天が多く、降雪も少なく、温暖で過ごしやすい、典型的な東日本の太平洋型気候です。

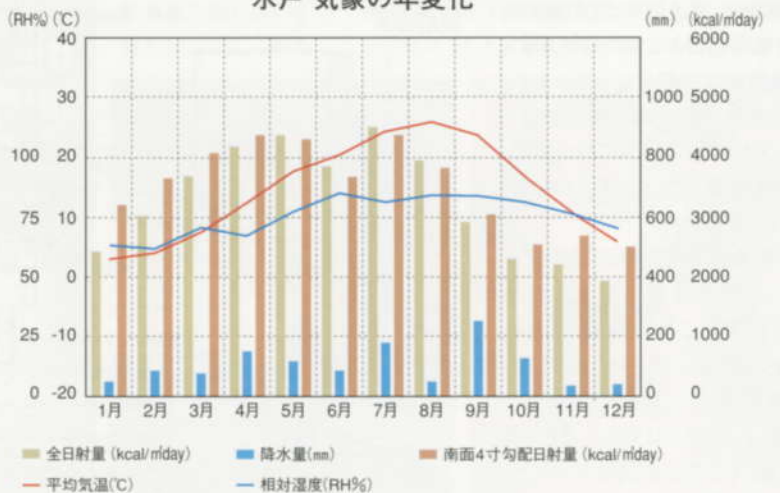


茨城県ひたちなか市

水戸 風配図



水戸 気象の年変化



※茨城県ひたちなか市周辺のアメダスデータとして、「水戸」地点のデータを参考にしてしています。

水戸 月平均気温

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
3.1	3.7	7.2	12.2	17.2	20.0	23.9	25.2	23.1	16.3	10.5	5.6

身体を力いっぱい動かせる、 気持ちの良い環境を。

「全身を使ってたっぷり遊び、豊かな感性やしなやかで丈夫な身体を育てる」を保育目標の1つに掲げたたんぼ保育園。平成22年3月に新築された園舎中央の広い遊戯室では、裸足の園児たちがピアノのリズムに合わせて元気良く走り回ったり、くると上手にブリッジをしたり、小さな身体をいっぱい使って楽しそうにリズム遊びをしています。

たんぼ保育園があるのは、茨城県のほぼ中央に位置するひたちなか市です。昭和43年に設立された社会福祉法人 たんぼ福祉会 たんぼ保育園は、昭和63年に園舎を全面改築しましたが、その後さらに20年以上経過したことや、一時保育、子育て支援などの要請があったこと、

また駐車場が狭かったことなどの理由から、広くて環境の良い場所への引越しを決めました。

「壊して建て替えることも考えましたが、土地が狭かったことと建築中の仮園舎のことを考えると、思い切って良い条件の土地を探して新しい園舎を建てる方が良いのではないかと思います」とお話ししてくれたのは、理事長の佐藤れい子氏です。

そして新園舎の設計は、株式会社ヤマト建築設計事務所の井坂陽子氏に依頼します。井坂氏はたんぼ保育園の新園舎建設設計画があることを知り、それまで自身が設計に携わってきた保育園の資料を携え、佐藤理事長に面会を求め訪れてきた女性の建築家です。

「改築の時も女性の建築家でしたし、細やかな目線で仕事をしていただけだったので、できれば今度も女性の方をお願いしたいと考えていました」という佐藤理事長は、井坂氏と話し合いを重ねるにつけ、「細か



理事長 佐藤れい子氏

なところまで話を聞いてくれて、なおかつ押さえるところはきちんと押さえる、というきっぱりとしたところがいい」と井坂氏の人柄に好感を持つようになり、新園舎の設計を委ねることに決めます。

設計に当たって佐藤理事長は、「園児の全面発達を保障したい」との方針を活かすよう希望するとともに、OMソーラーシステムを導入したい旨も伝えます。「新聞でOMソーラーを導入した体育館の記事を読んで関心を持ったこと、それと自宅にOMを導入した園長仲間から、身体に負担が掛からなくていいと薦められたから」と、OM導入を希望した理由を説明する佐藤理事長。

井坂氏はそれまでOMの設計を手がけたことはありませんでしたが、「以前から興味を持っていましたので、良い機会を与えていただきました」と快諾。しかし、「正直言って晴れが少ない時の心配がありましたので、すでにOMを導入している保育園の現状を知ることが必要だと思いました」と、佐藤理事長とともにOM導入の保育園へ見学に出向きます。

その結果、「補助暖房の用意をされていた保育園もありましたが、OMの蓄熱効果で建物の基本的な温度があらかじめ保たれているため、補助暖房を使ったとしても効率がかなりいいとお聞きしまして、大丈夫だと安心しました」と、実際の効果を確認し納得して、OM導入の保育園建設に向けスタートします。

OMソーラーは設計と一体になって 効果を発揮するシステム。

OM初体験だった井坂氏には、OM独特の傾斜屋根や床下の基礎など、戸惑うことが少なくありませんでした。「床下については構造設計者と



株式会社ヤマト建築設計事務所
井坂陽子氏



園の希望で生まれた天井高でのびのびした遊戯室は園児が思い切り活動できる空間に。



昼寝中の園児たち。布団も自分で準備ができる。



園で調理された昼食を上手に食器によそう園児たち。



半袖、半ズボンで園舎と園庭を元気良く行き来する園児たち。

相談しながら進めていきました。勾配屋根は大きな建物になればなるほど、勾配を上げるとコストが掛かりますので、設計に携わる者としては気になったところでした。でも、園からは開放的な空間を求められていましたし、結果として気持ちの良い空間をつくることができ良かったと思います。OMソーラーは設計と一体で効果が発揮されるということが分かりましたし、本当にとても良い経験になりました」と井坂氏。

また今回の経験を通してこんな発見もあったといえます。「旧園舎の改築を担当されたのは(故)佐々和子さんという建築家でした。旧園舎をお訪ねした時、お湯を循環させて暖房に利用したり、風や光など自然の力を取り入れた設計をされていて、20年以上前からそうした先駆的な取り組みをされていたことに衝撃を覚えました。それで佐々さんのことを調べましたら、実は佐々さんはOMソーラーの考案者である奥村昭雄先生のお弟子さんで、OMソーラーも手がけられていたということが分かったんです。旧園舎はOMソーラーこそ導入していませんでしたが、環境共生の姿勢を貴かれていたんですね」と、感慨深げに振り返ります。

運動機能を向上させることで自信につなげるとの方針に従い、園児たちが伸び伸びと身体を動かせるよう設けられた遊戯室は、見上げるほどの高い天井を安心感のある太い円柱が支える開放的な空間になっています。床は遊戯室をはじめ各保育室もベランダもすべて檜で、OMソーラー導入の効果とともに、素足でも冷たさを感じさせません。

「園舎に入ると本当に気持ちがいいんです。見学に来て下さった方々も、床にごろんと寝転がったり、ゆっくりと寛いでいかれたりして、気持ちがいいと褒めて下さるんですよ」と、園児だけでなく、そこで働く職員にとっても、また訪れる人にとっても良い環境をつくるのが出来たと、嬉しそうにお話する佐藤理事長。園長の佐藤洋氏も、「旧園



朝夕行われる雑巾掛けの様子。

舎でも子どもたちは半袖半ズボンで走り回ってはいましたが、本当に寒い時などは身体が冷えやすい子どもはストーブの前に固まっていたね。でもこの園舎ではそういう光景は見られなくなりました」と、裸足で元気いっぱい走り回る園児たちの様子に目を細めます。

子どもたちが進んでやりたいと思える自主性を育てる、という教育方針のたんぼぼ保育園では、園児たちはお昼寝の布団も、食事の支度も、自分で考えてとどんどん行動に移していきます。一日2回行われる雑巾掛けの雑巾も、たどたどしくも自分で縫ったもののだといえます。

「最初はできなくても、自分でやりたいと思う気



園長 佐藤洋氏

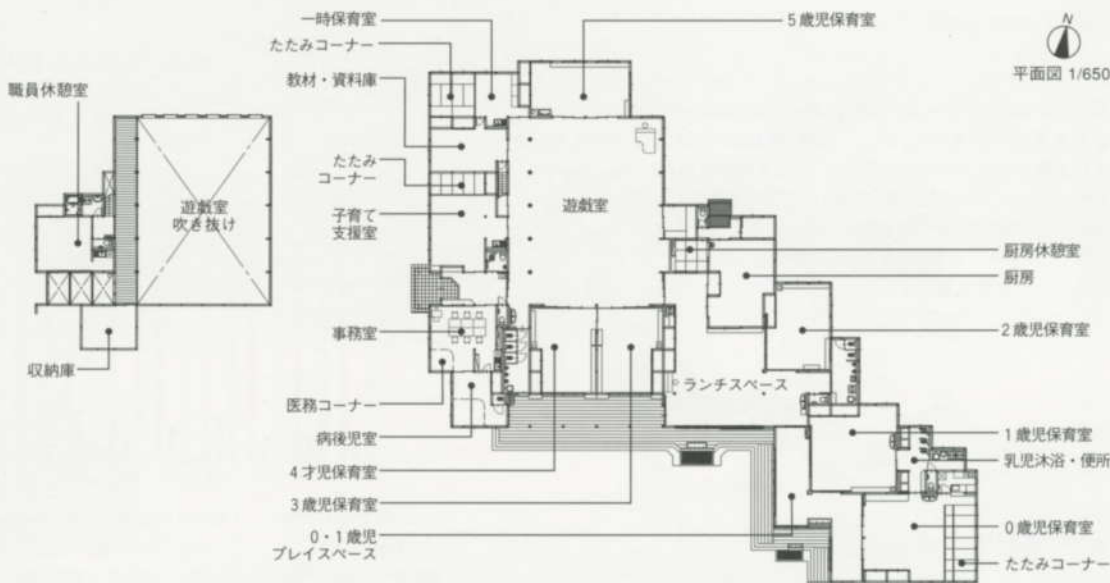


玄関にあるダクトでは、OMで温めた空気に触れることができる。



園舎と園庭をつなぐ幅広いテラスも檜が使われている。

持ちを丁寧に育ててあげれば、それが自信に繋がって自立ができるようになるんですよ」という佐藤理事長。自然と手を携えた開放的で気持ちの良い新園舎を得て、心と身体の発達を保障し「生きる力」を身につけた子どもたちの成長をこれからも見守り続けていきます。



名称/たんぼぼ保育園 所在地/茨城県ひたちなか市 主要用途/保育園 設計/西ヤマト建築設計事務所 OM部分施工/ミツキホーム(株)
建物規模/木造2階 建築面積/1,008.87㎡ 延床面積/998.69㎡ 竣工/2010年5月

写真/上田 明